

保健福祉局の運営にあたって

取組姿勢

昨年度は、世界的に流行した新型インフルエンザの発生に対し、様々な対策を実施したほか、妊婦の経済的負担軽減を図り、必要な健診を受診できるよう、公費負担の回数、内容の充実を図りました。

今年度の取組としては、発症すると重症化しやすいヒブ（インフルエンザ菌b型）による乳幼児の細菌性髄膜炎を予防するため、ヒブワクチン接種費用の助成を4月から開始します。

昨年度に発生した新型インフルエンザの流行を踏まえ、再流行や病原性の変異のほか、新たなウイルスの流行などに、より迅速かつ効果的に対応できるよう「札幌市新型インフルエンザ対策行動計画」の見直しを図るなど、引き続き対策を推進します。

さらに、食の安全と信頼の確保に関する施策について、外部委員会からの提言を踏まえた基本計画を策定し、食産業や観光の振興も視野に入れた「安全・安心な食のまち・さっぽろ」を目指す取組を推進していきます。

また、自殺対策を総合的かつ効果的に推進するための具体的な取組として「札幌市自殺総合対策行動計画」を策定し、保健・医療・福祉や教育、労働等に関する機関・団体等と連携することにより、「ひとりでも多くの命を救う」ことのできる地域社会を目指していきます。

これらの施策を進めていくにあたり、市民への積極的な情報提供に努めるとともに、実施部門である各区保健センターや科学的拠点としての衛生研究所などと連携して、局運営にあたってまいります。

最重点項目

ヒブワクチン接種の
公費負担実施

新型インフルエンザ
対策の推進

安全・安心な
食のまち・さっぽろ推進事業

自殺総合対策
の推進

平成22年（2010年）4月
保健福祉局医務監 渡部正行